

グローバル・パートナーシップ作業部会
武井外務副大臣挨拶

- G P メンバー国の皆様、アジア各国の皆様、国際機関の皆様、御列席の皆様、日本へようこそ。日本国外務省を代表して、グローバル・パートナーシップ作業部会に参加されている皆様に、心より歓迎の意を表します。
- ロシアによるウクライナ侵略が示すとおり、平和と安定は当然視すべきでなく、たゆまぬ取組が必要です。日本は、本年の G 7 議長国として、国際社会の平和と安定のため、一層尽力していく考えです。
- 2002年のカナダスキス・サミットで立ち上げられた「大量破壊兵器等の拡散に対するグローバル・パートナーシップ（G P）」は、軍縮・不拡散分野における意義深い取組です。サミットをホストしたカナダに敬意を表したいと思います。
- ご案内のとおり、当初、G P はロシアの退役原潜の解体や化学兵器の廃棄といった取組から始まりました。現在では、安保理決議 1540 の履行や核・放射線源セキュリティ（N R S）、生物・化学セキュリティ（B S / C S）といった分野に広がり、参加国数も 30 か国を数えるまでに成長しています。

- 約 1 年前に始まったロシアによるウクライナ侵略により、原子力施設における安全と核セキュリティ上の懸念や化学兵器使用の脅威が生じました。また、パンデミックは我々に生物セキュリティの重要性を改めて認識させました。北朝鮮は累次の安保理決議に違反し、核・ミサイル開発を続けています。G P の下での取組の今日的な意義が高まっている証左と言えるでしょう。
- G P は、広島出身の岸田総理が重視する「核兵器のない世界」の実現にとっても不可欠です。この文脈でも、我が国は一層G P に貢献していく考えです。
- 昨年 10 月のベルリンでのG P 作業部会では、シュプレー川のほとりで、夕食会が開催されたと伺いました。今晚は、ライトアップされたレインボー・ブリッジを見ながら、よりリラックスした形で、交流を続けていただければと思います。
- 今年のG P は、日本開催ということで、ASEAN地域からも出席をいただいています。今年は、日本ASEAN友好協力50周年の歴史的な節目であり、ご参加を心から歓迎いたします。平和で安定した世界の実現に向け、また皆様方の御健勝を祈り、乾杯の音頭を取らせていただきます。
- 乾杯！

(了)